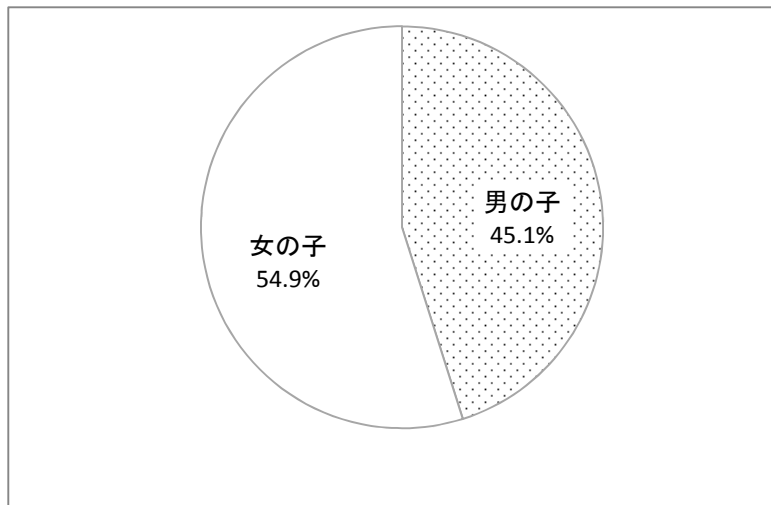


調査結果

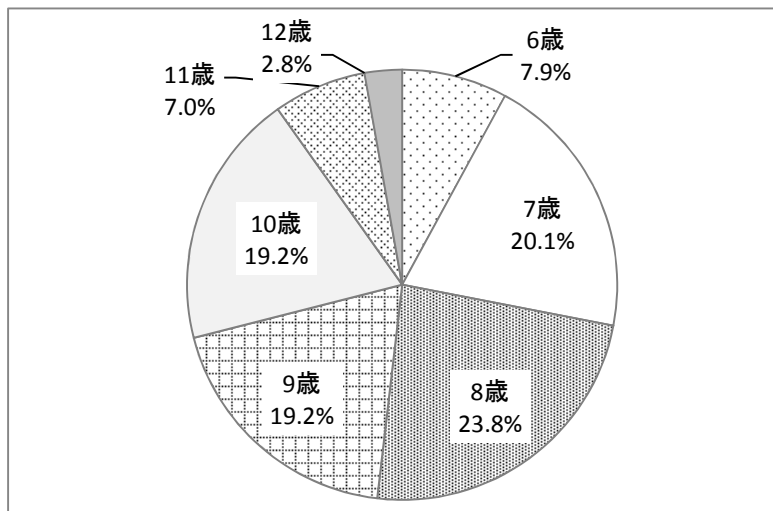
【1.受験者 アンケート調査概要】

調査名 : 児童英検 受験者対象「英語をはじめとする学習に関するアンケート」
調査対象 : 2010年 第2回「児童英検」公開会場受験者
対象年齢 : 6歳～12歳 ※公開会場での受験の場合は、円滑な運営と安全のため、
受験資格を「小学生以上」と定めています。
会場 : 東京、名古屋、大阪の公開受験会場
有効回答数 : 受験者231名中215名(回答率93.1%)
調査実施日 : 2010年10月31日(日)
調査方法 : 児童英検 試験終了後に実施(回答時間約15分。年齢によっては保護者の補助あり)

受験者 男女比率



年齢 年齢構成

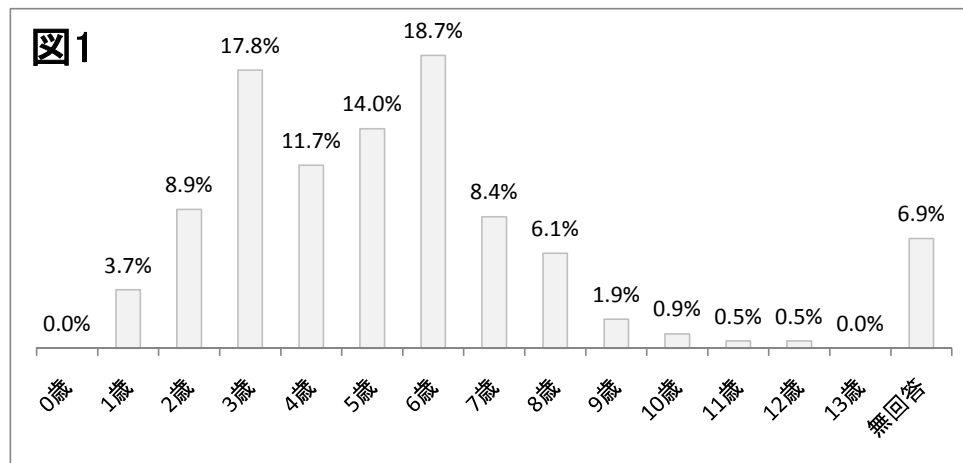


7歳～10歳(小学校低学年～中学年)の受験者が82.3%と8割を超えています。平均年齢は8.54歳となっています。

(受験者)

1-1 何歳から英語の勉強を始めましたか(図1)

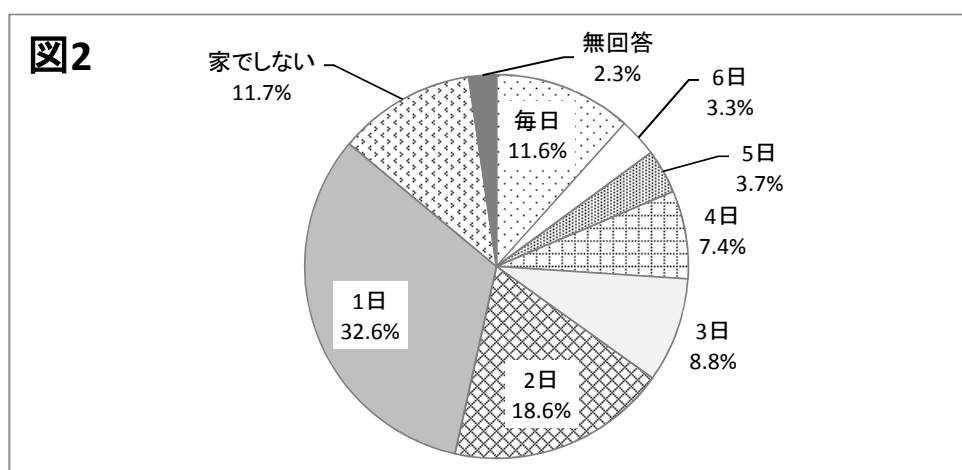
小学校入学前から英語学習を始めている子どもが半数超。(56.1%)



6歳からが18.7%と最も多く、次いで3歳の17.8%、5歳の14.0%となっています。小学校入学前(0～5歳まで)に英語学習を始めている子どもをトータルすると半数を超えており、児童英検の受験者については早期から英語教育を行っていることが伺えます。

1-2 家で英語を勉強するのは1週間でどのくらいですか(図2)

週に1～2回、家庭で英語の学習をする受験者が半数以上。毎日勉強している受験者も1割を超えている。平均は2.46日/週。

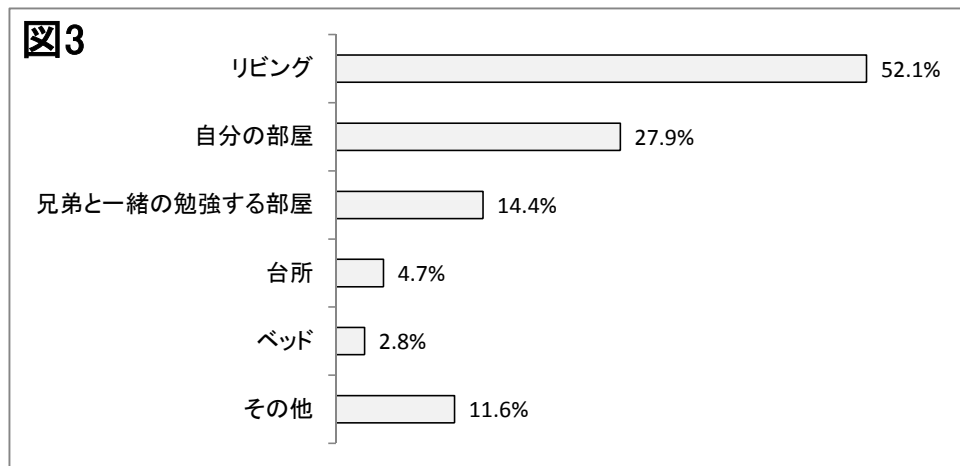


家で英語を勉強する受験者は「週に1日」が32.6%と最多、次いで「2日」が18.6%となりました。また、「毎日」と答えた受験者は11.6%となっていますが、「家で(英語の勉強を)しない」と答えた受験者も同様に11.6%となっています。

(受験者)

1-3 家のどこで勉強しますか(図3) 複数回答

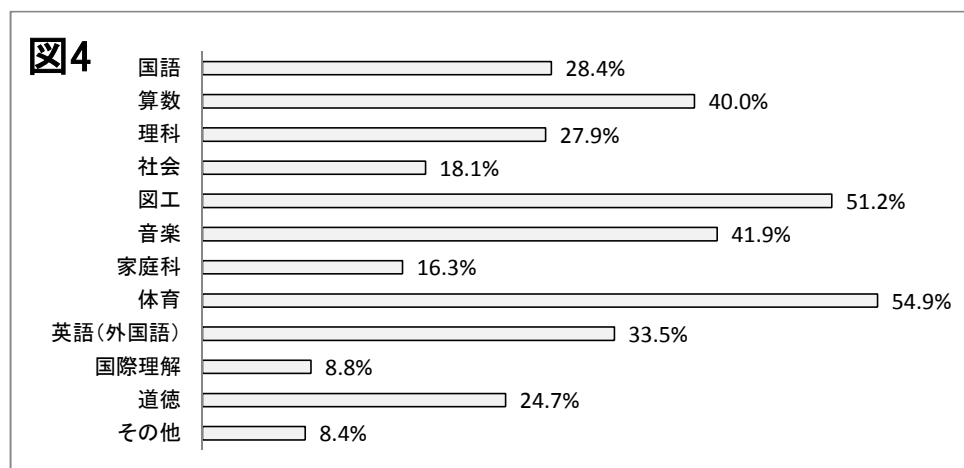
リビングで学習する受験者が半数以上。自分の部屋は3割弱にとどまる。



「リビングで勉強している」と答えた子どもが半数以上の52.1%となり、保護者の目の届くところで学習する受験者が多いようです。自分の部屋で勉強している子どもは、3割弱の27.9%にとどまる結果になっています。

1-4 小学校の授業で好きな教科は何ですか(図4) 複数回答

「体育」と答えた受験者が半数以上の54.9%となり、次いで、図工、音楽と上位3つが実技科目。英語は算数に次いで5位。

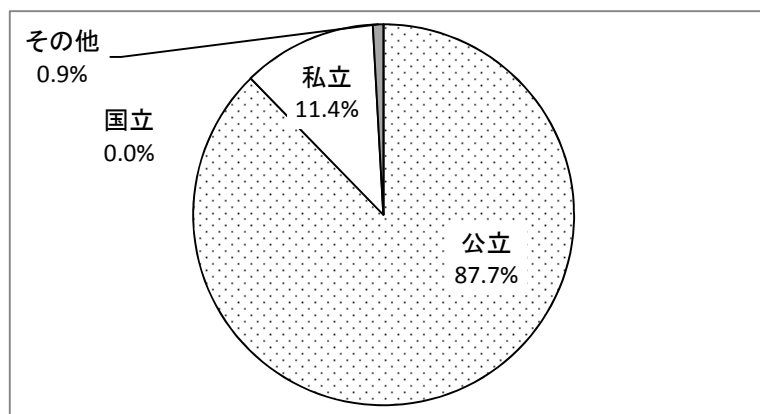


小学生には「体育」「図工」「音楽」といった実技科目が人気のようで、上位3科目を占めました。「英語」は必修科目でないにもかかわらず、算数に次いで5位となっています。主要科目では「社会」を好きと答えた受験者が少なく、あまり人気のない科目となっているようです。

【2.保護者 アンケート調査概要】

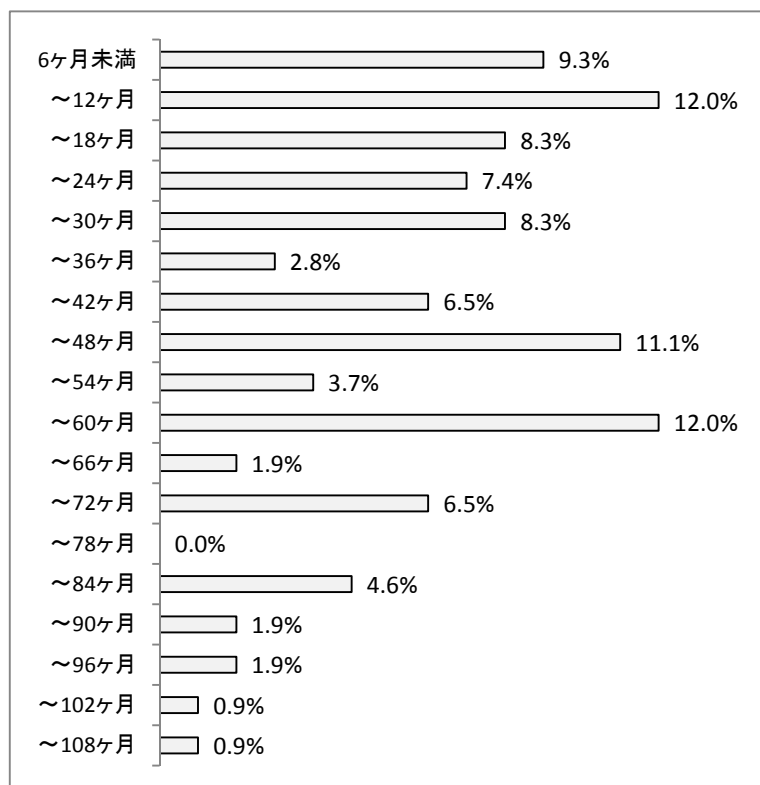
調査名 : 児童英検 受験者の保護者対象「英語をはじめとする学習に関するアンケート」
調査対象 : 2010年 第2回「児童英検」公開会場受験者(児童)の保護者
会場 : 東京、名古屋、大阪の公開受験会場
有効回答数 : 114名
調査実施日 : 2010年10月31日(日)
調査方法 : 児童の試験中、保護者控室にてアンケート用紙に記入(所要時間約10分)

お子様が通う小学校はどこに該当しますか



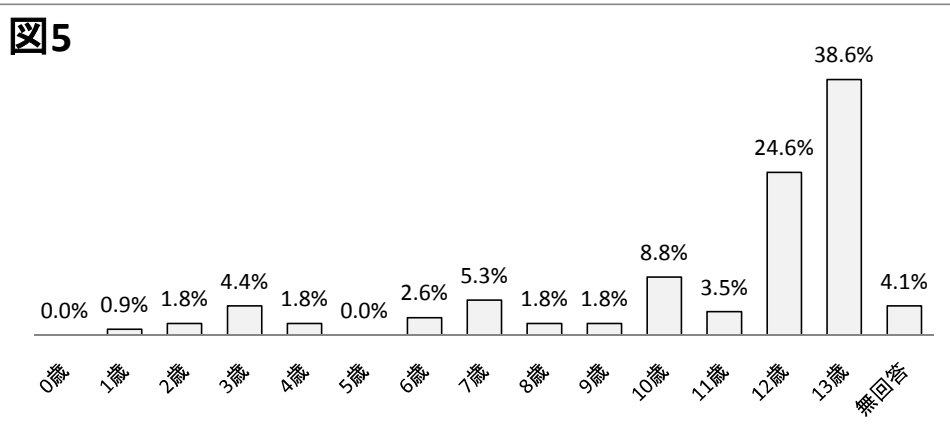
お子様の英語学習期間はどのくらいですか

学習期間



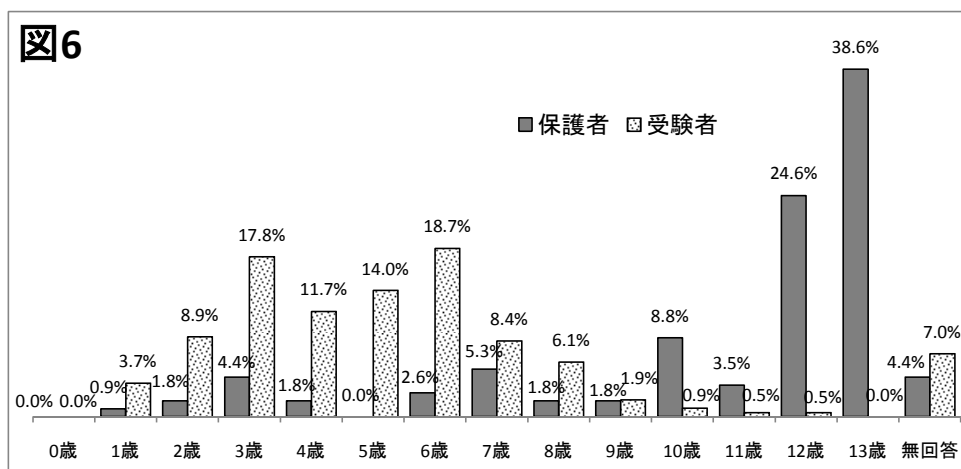
2-1 あなたは何歳から英語の勉強を始めましたか(図5)

受験者の保護者のほとんどが12～3歳(中学生)から英語学習を開始。



(参考) 受験者が英語の勉強を始めた時期との比較(図6)

保護者は中学からの学習者が半数以上。
受験者は3～6歳が6割超(62.2%)となっており、特に3歳、6歳の入園・入学時期から始める受験者が多数。



児童英検の受験者においては、小学校入学前(0～5歳まで)に英語学習を始めている子どもが半数を超えており、早期から英語教育を行っていることが伺えます。2002年から日本の公立小学校では、総合的な学習の時間の枠内で、外国語活動(現実には英語活動とほぼ同義)を実施することができるようになり、文科省発表の2009年実施計画によると、97.8%の小学校ですでに外国語活動が導入されていることが要因のひとつと考えられます。

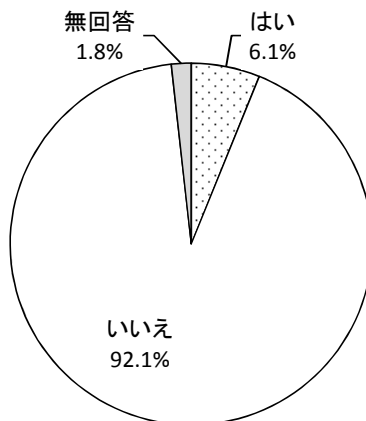
一方、保護者は中学校からの英語学習者がほとんどであり、親世代の小学校時代は、中学入学後に英語学習を開始するのが一般的だったことが伺えます。

(保護者)

2-2-a あなたが小学生の時、英語の授業はありましたか(図7)

ほとんどの保護者が小学校で英語の授業がなかったと回答。

図7



保護者の小学生時代は20～30年ほど前と推測でき、当時は英語教育を行っている小学校はほとんどありませんでした。そのため、保護者の回答は「いいえ」が多数を占めました。

2-2-b (2-2-aで「いいえ」と答えた方のみ:n=105)

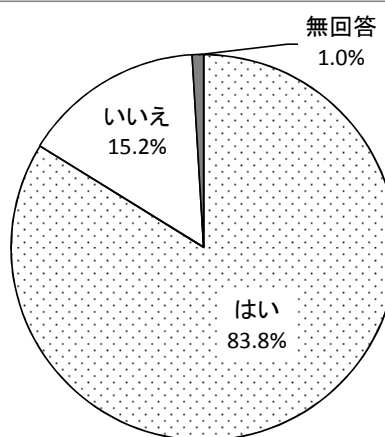
あなたが小学生の時に英語の授業があったら良かったと思いますか。(図8)

2-2-aの問いで「いいえ(小学校で英語の授業がなかった)」と答えた保護者(n=105)のうち、小学生の時に英語の授業があったら良かったと答えた保護者は8割超。

図8

※「あなたが小学校の時、英語の授業はありましたか？」の質問に対し、「いいえ」と答えた方へ質問(n=105)

「あなたが小学校の時に英語の授業があったら良かったと思いますか？」

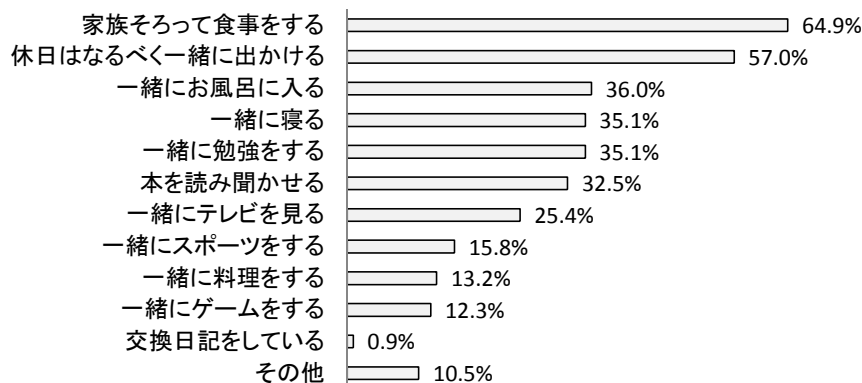


小学生の時に英語の授業を経験していない方で、英語の授業があった方がよかったと感じている保護者は83.8%にのぼりました。その理由として、「リスニングは早いうちからやりたかった」(16人)との意見が多く、「英語力が大人になってから必要」(11人)「中学で学ぶ前に楽しく英語に接しておきたかった」(9人)などの意見もみられました。

2-3 お子さんとコミュニケーションをとるうえで工夫していることは何ですか。(図9) 複数回答

「家族そろって食事をする」が64.9%と最多。

図9

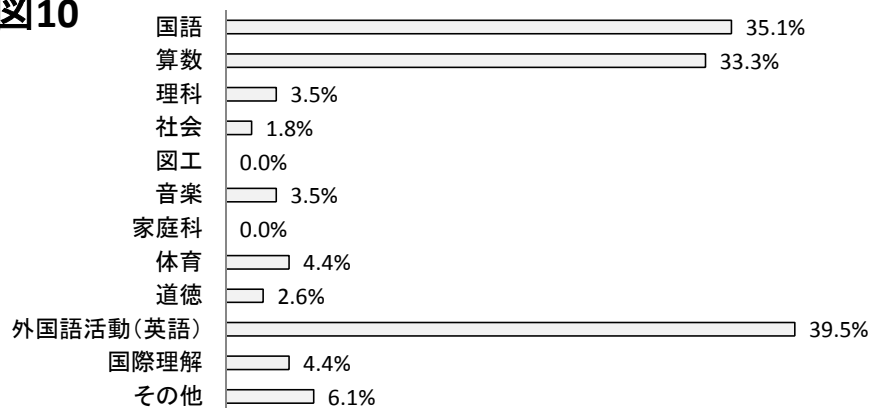


家族そろっての食事は今も昔も変わらず、大切な団らんのか場と考えている保護者が多いようです。次いで、「一緒に出かける」「一緒にお風呂に入る」ことでコミュニケーションをとる保護者が多く見受けられました。それぞれ工夫を凝らしながら、「学校であったことを聞く」「子どもに話をさせる機会をつくる」など、会話も含めたコミュニケーション活動を行っているようです。

2-4 お子様に頑張ってもらいたい教科は何ですか。(図10) 複数回答

英語が最多。以下、国語、数学と続く。

図10



受験者が最も多く「好き」と答えた「体育」は4番目となりました。児童英検を小学生から受験させている保護者にとって、やはり「英語」が最も子どもに頑張ってもらいたい教科と考えているようです。